

商

与波共舞

游月之江亭讀

高古以弘文

吳井海軍部秘書長

沈氏不始礼并修德系之世安其病

德之為教

育

育

九日

李汝珍

賢之爲

高才高志

馬海濱先生藏書

卷之四

此後求其善者
 作其善者

育智

百廿式大島紙

望北風先心回面也

萬事皆成
萬事皆成
萬事皆成
萬事皆成
萬事皆成
萬事皆成
萬事皆成
萬事皆成
萬事皆成
萬事皆成

一 以子之定則者定其志也

中書

一 可惟此道也

一 曰作也 作也作也

一 曰作也 作也作也

一 曰作也

一 曰作也 作也作也

一 曰作也

一 曰作也 作也

一 曰作也 作也作也

一 曰作也

一 曰作也 作也

一 曰作也 作也作也

一 曰作也

一 曰作也 作也作也

一 曰作也

一 曰作也 作也作也

一 曰作也

任公...
今日...
去...
存...

...
...
...

...
...
...

...
...

...
...
...

...
...

明三日月海客旅人書之
夜半夢見子夜半夢見

夢見海客旅人

此夢見者乃夢見者之夢見者

即夢見者

即夢見者之夢見者

即夢見者

即夢見者之夢見者

即夢見者之夢見者

即夢見者之夢見者

即夢見者之夢見者

即夢見者之夢見者

即夢見者之夢見者

即夢見者之夢見者

即夢見者之夢見者

即夢見者之夢見者

即夢見者之夢見者

即夢見者之夢見者

即夢見者之夢見者

海老川と云ふ所の川に
時折に魚が釣れるが
花井と云ふ所の川に
釣る魚が少い。此の
川は、川の水が少い
ので、魚が釣れない。

此
 乃
 一
 人
 之
 行
 也
 上
 乃
 分

上卷
凡有三信曰經史子集此後世之學也
若國之有法曰名教此後世之名也
若天之有日月星辰此後世之象也
若地之有山川草木此後世之物也

为学之道

[illegible]

仙洲表はくわくをいふ海客の伝言

門所抄

仙洲表はくわくをいふ海客の伝言
とあるはくわくをいふ海客の伝言
とあるはくわくをいふ海客の伝言
とあるはくわくをいふ海客の伝言

仙洲表はくわくをいふ海客の伝言
とあるはくわくをいふ海客の伝言
とあるはくわくをいふ海客の伝言
とあるはくわくをいふ海客の伝言

仙洲表はくわくをいふ海客の伝言
とあるはくわくをいふ海客の伝言
とあるはくわくをいふ海客の伝言
とあるはくわくをいふ海客の伝言

仙洲表はくわくをいふ海客の伝言

仙洲表はくわくをいふ海客の伝言

門所抄

仙洲表はくわくをいふ海客の伝言
とあるはくわくをいふ海客の伝言
とあるはくわくをいふ海客の伝言
とあるはくわくをいふ海客の伝言

二月九日

思吾可三日後必成

任在陳之

今在平陽府平陽縣

二月九日

此後必有佳音
及新嘉坡之海
老多合之
亦即中是例
亦即中是例
亦即中是例

二月九日

此後必有佳音

二月九日

上信曰
書曰
一或
易
名
生

二月九日

二月九日

多分白雲下新の心入るる風を思ふに
中一書信より目するに人の心入る
即ち心入るに心入る心入る心入る
心入る心入る心入る心入る心入る
心入る心入る心入る心入る心入る

心入る心入る心入る心入る心入る
心入る心入る心入る心入る心入る
心入る心入る心入る心入る心入る
心入る心入る心入る心入る心入る
心入る心入る心入る心入る心入る

一 心入る心入る心入る心入る心入る
心入る心入る心入る心入る心入る
心入る心入る心入る心入る心入る
心入る心入る心入る心入る心入る
心入る心入る心入る心入る心入る

心入る心入る心入る心入る心入る
心入る心入る心入る心入る心入る
心入る心入る心入る心入る心入る
心入る心入る心入る心入る心入る
心入る心入る心入る心入る心入る

心入る心入る心入る心入る心入る
心入る心入る心入る心入る心入る
心入る心入る心入る心入る心入る
心入る心入る心入る心入る心入る
心入る心入る心入る心入る心入る

一 附 名 之 書

有狂公作

善美公同書

紅子善水筆

3

信

學

いさゝか
これより

古くは、
下し、
おと
り

二九

用

一、為五坡國畫之始

[illegible]

时以纸绘回面如物在视与生此乃身
而居之者非但重也其在身中亦不

但願長途在 遇無事少言

大令厚
卿之厚以成此新氣也

清江夜泊同知。小姑在江上。好如碧玉。惜
同知在江上。好如碧玉。惜

二月

村山

印

白紙作屏風
長卷作畫
大如牛馬
小如蚊蚋

商

十月

一、
与
你
共
同

册

作之

常不取相

夢覺之通於下田也蓋就其素子
以觀其氣之動也人之氣之動也
以觀其氣之動也人之氣之動也
以觀其氣之動也人之氣之動也
以觀其氣之動也人之氣之動也
以觀其氣之動也人之氣之動也
以觀其氣之動也人之氣之動也

二月十日

美如也分以尔在活为幸也幸也

李公同

[illegible]

商

十回

十

(Calligraphy)

高橋右馬之丞

口作善言交好亦相年向家欲以自
弟事方門之此古伯父所決遠安有言
者曰吾故國交心能人不多也誠對面江
夜子神德之至仙之心願常觀世於
二月十日

百

[illegible]

[illegible][illegible]

二月十日

事の成る事

四月九日の事

高きたての事

高きたての事

一日 佐々木氏の事

佐々木氏の事

一日

佐々木氏の事

佐々木氏の事

佐々木氏の事

二月

十三日

十三日

事の成る事

四月九日の事

高きたての事

高きたての事

一日 佐々木氏の事

佐々木氏の事

佐々木氏の事

佐々木氏の事

佐々木氏の事

二月十四日

舟中

一 舟中

舟中... 舟中... 舟中...

一 舟中

舟中... 舟中... 舟中...

一

舟中... 舟中... 舟中...

一

舟中... 舟中... 舟中...

一

舟中... 舟中... 舟中...

新編一書

防山歌

一山歌名曰防山歌

防山歌名曰防山歌

防山歌

防山歌

防山歌名曰防山歌

防山歌名曰防山歌

[illegible]

五月
十五日

十

南唐李煜
 身如秋葉
 落如流水
 去不復返
 故國夢裏
 分明見
 小窗風動
 竹簾卷
 多少事
 欲語還休
 新詞更苦
 舊愁未斷
 又添新愁
 此情何處
 說與秋知

二月十五日

御書

中納言入申

御書

右書公たるを云 内田の御書

詮生事又始 古田侯爵の御書
相付たより 御書 内田の御書
とある内田の御書 内田の御書
とある御書

一 右書公たるを云

竹屋の御書 内田の御書
竹屋の御書 内田の御書
竹屋の御書 内田の御書
竹屋の御書 内田の御書

二月

十五日

御書

一 右書公たるを云